## One Team 柏原　「はびろの里未来コミュニティ」

| 米原市 | 活動名:柏原学区地域学校協働本部 | 柏原中学校・柏原小学校 学校運営協議会 ： ■有 □無 |
|---|---|---|

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度:平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数:3人(兼務3人)　ボランティア登録数:50 人
■学習支援(授業補助、学力補充等)　■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備)　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　□部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他[　　]

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　■行 政　□その他(　　)

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
・柏小・・・はびろウォークの取組に関して、下見の時期やコース・チェックポイントの場所について検討と確認を行った。
・柏中・・・学園祭「柏中祭」と防災訓練の取組について、連携方法について検討と確認をした。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)
〇柏小:「はびろウォーク」
全校児童が、縦割り班に分かれて柏原地区と長久寺地区を歩き、地域の方々や柏原の歴史、自然と触れ合った。10 カ所のチェックポイントで、クイズに挑戦したりミッションをクリアしたりして、たいへん有意義な時間を過ごすことができた。学校運営協議会委員や保護者ボランティアの方には安全見守りとして立哨いただき、途中コースを間違えそうになった班に声を掛け、正しいコースに導いていただいたり、横断歩道や線路を渡る際に安全確認をしていただいたりしてたいへん助かった。


【　はびろウォーク　】

〇柏中:「柏中祭」
例年実施している「地域防災訓練」は、感染症流行の影響により地域のデイサービスの参加はなかった。しかし、本年度は新たに地域住民参加型の学園祭「柏中祭」を開催した。プログラムは生徒の発案による企画で構成されており、防災を取り入れたリレーやクイズ大会、特に好評であった「出店(屋台)」などの取組により、多くの地域住民や小学校 5・6 年生に参加してもらうことができた。


【 柏中祭 】

■ 事業の成果・展望
〇柏小:今年度は長久寺地区での活動で、地域のことを改めて知ったり、より詳しく探求したりすることができた。県境と長比城跡では、地域の方から専門的な話を聞くことができ、柏原の歴史について理解を深めることができた。また、上学年は下学年の子たちに寄り添って歩いたり、皆がクイズに参加できるように声をかけたりすることができ、リーダーシップを発揮するよい機会となった。
〇柏中:地域住民参加型のイベントとして新たに「柏中祭」を立ち上げた。本校が掲げる教育目標である「自律・対話・創造」に沿った取組を実施したことで、生徒の自己肯定感および自己有用感の向上に大きく貢献した。特に、対話力や企画力の成長については、アンケート結果からも確認できている。また、参加者数は全校生徒数の約3倍にあたる地域住民の来校があり、生徒の大きな自信につながった。次年度は、さらなる発展的な取組をめざしたい。
〇事業の実施は、関係機関や学校運営協議会委員、ボランティアの協力なしには困難である。今後も学校を中心として事業を進めていくが、その充実と継続のためには、学校運営協議会による協賛・支援体制を一層強化していく必要がある。そのため、役割分担や連携のあり方を整理するなど、組織体制の整備が不可欠である。学校運営協議会と密に連携しながら、事業の今後の方向性や支援体制の構築について検討を重ね、計画的に進めていく必要性を感じている。

■ その他
・事業には学校運営協議会委員にも積極的に参画していただいている。こども園は地域学校協働本部には参画していないため、柏原学区では以前から連携を続けているが、今年度は十分な連携ができなかった。今後こども園と小・中学校で地域を巻き込んだ実践を行う予定である。

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)
■校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　□その他(　　)

報告書記入者(　中学校校長・小学校教頭　)

## 「子どもは地域の宝」～地域みんなでふるさとを愛する子どもを育てよう！～

| 米原市 | 活動名:河南学区地域学校協働本部 | 河南中学校・河南小学校・かなん認定こども園<br>学校運営協議会 ： ■有　□無 |
|---|---|---|

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度:平成 27 年度　地域学校協働活動推進員等数:4人(兼務2人)　ボランティア登録数:130 人
■学習支援(授業補助、学力補充等)　■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備)　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他[　　]

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行 政　□その他(　　)

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
・地域ボランティアの人材確保のために、どのように PR するかを検討した。
・学校運営協議会主催「河南学区まいばら教育フォーラム」の開催時期や内容について協議した。

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)
・河南学区は、中山道の宿場町(醒井・番場)であった地域のため、歴史・文化の史跡が多く、小中学校ともにふるさと学習に取り組んでいる。その活動には、地域活性化を目的に活動されている「番場の歴史を知り明日を考える会」等のご支援をいただきながら実施している。また、小学校での「ふれあいひろば」では、地域の方々にご協力いただきながら実施している。

≪実施に当たっての工夫≫
・学習ボランティアや講師はできるだけ河南学区在住の方々にご協力願うため、地域学校協働活動推進員が人材発掘に努めた。
・「河南学区まいばら教育フォーラム」の生徒、保護者、地域の方の参加を再開し、参加が得られるように努めた。



【 河南学区まいばら教育フォーラム 】

■ 事業の成果・展望
・河南中学校の家庭科の手縫いの授業では、教職員1人ではなかなか目の届かないところを、ボランティアの方々に数時間学習支援をしていただくことで、きめ細かい指導ができ、生徒の学習意欲の向上につながっている。
・音楽科の和太鼓教室では、その道に長けた地域の方5名に演奏指導をしてもらい、1，2年生の連続で学ぶ充実した取組となった。
・かなん認定こども園との活動を検討する必要がある。
・各校園とも地域学校協働活動推進員との窓口が学校管理職に、報償費などの事務作業が学校事務職員に偏る傾向にある。そのため、「地域連携担当教職員」にその職務を任せられる校内体制の構築と、事業全般において地域学校協働推進員との役割分担を明確化することが必要である。


【 プランター交流会 】

■ その他
・小中連携による「河南学区学校運営協議会」を立ち上げて7年となる。今年度も、「笑顔いっぱい・花いっぱい活動」「笑顔いっぱい・あいさついっぱい活動」「笑顔いっぱい・学びいっぱい活動」の3本柱で事業の推進を図っている。
・学校運営協議会委員には、地域学校協働推進員や社会教育委員が参画し、コミュニティ・スクール事業と地域学校協働推進事業の一層の連携を図っている。

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)
■校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　■その他( 事務職員 )

報告書記入者( 教頭 )

## ふるさと伊吹とともに歩み、ふるさとを愛する心を育てる地域協働活動

| 米原市 | 活動名:伊吹山学区地域学校協働本部 | 伊吹山中学校・伊吹小学校・春照小学校・いぶき認定こども園　学校運営協議会 ： ■有　□無 |
|---|---|---|

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度:平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数:4人　ボランティア登録数:60 人
■学習支援(授業補助、学力補充等)　■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備)　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他[　　]

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)
■学校・園　■学校運営協議会　□地域学校協働活動推進員等　□行 政　□その他(　　)

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
(1)生徒の安心・安全…行事への参加、見守り
(2)地域とのつながりを感じられる取り組み…ふるさと学習の計画・運営、学習支援
(3)取組の発信と広報活動


【 北国脇往還 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)
(1)地域と連携・協働して実施した総合的な学習の時間の取組
中学校の学校運営協議会と連携・協働して、1年生で「北国脇往還」、2年生で「東草野探訪」を計画・実施している。この取組は、地域の豊かな自然環境や歴史環境の教育力(教材、人材)を活用して、ふるさと伊吹のよさを体感する目的で行うものである。
学校運営協議会では、前年度の成果や課題をもとに、計画の段階から、内容の検討を行っている。今年度は、昨年度までの見学地が訪問できなくなり、新たな見学地の検討が必要となったため、生徒に学ばせたい内容や指導してくださる講師の検討も行った。また、生徒が安全に活動できるように危険箇所を確認し、見守り体制を整えている。見守りの一つとして、地域の方々への広報活動や協力要請などを行った。計画から運営において、地域と学校が連携・協働して取り組むことができた。当日は、学校運営協議会委員のみなさんに随行していただき、安全確認、生徒への声かけ、広報用動画の撮影をしていただいた。事前の呼びかけにより、道路沿いで地域の方や福祉施設の利用者からの応援があり、生徒も地域の方々からの温かさを感じる機会となった。
ふるさと伊吹の自然や歴史・文化が並ぶ魅力的な「北国脇往還」、「東草野」を伝承していくために、今後も地域の方々の応援をいただきながら推進していきたいと考えている。
(2)学習・活動支援
各小学校では、生活科や総合的な学習の時間に学習してきたことを他学年・保護者・地域の方に発信する「伊吹フェスティバル」、「春照ふるさとフェス」を行った。地域の特色に関わる内容について学ぶ企画も行い、学校運営協議会委員のみなさんに参画いただいた。中学校では、学校運営協議会委員でもあり、地域に住む元音楽教員が、合唱コンクールに向けて各クラスの合唱練習の支援を行い、中学校3年生対象に、地域の元国語教員が小論文・作文講座の講師を務め、学習支援を行った。
(3)伊吹地区教育フォーラム
伊吹地区では、毎年、園および小中連携事業の一環として、校種を超えて教職員がともに学びあう「伊吹地区教育フォーラム」を実施している。「シビックプライドの育成に向けて～伊吹山を愛する伊吹っ子の育成をめざして～」というテーマにそって、伊吹小学校の取組の紹介「伊吹山を核とした地域学習、防災教育」や、学校運営協議会委員による講演「伊吹地区土砂災害を経験して」、各校園の交流を行った。

■ 事業の成果・展望
・地域と連携・協働した活動の中で、中学校区の園・小中学校の連携をさらに推進していく。
・中学校区の実情に応じた取組を円滑に推進するとともに、今後に向けて、学校と地域が互いにパートナーとして双方向に連携・協働する関係づくりの構築を目指す方向性を学校として明確に示していく。
・学校を含めた地域社会全体で子どもを育てようとする意識が高まっていけるよう学校が主体となって地域に働きかける。保護者や学校運営協議会委員だけでなく、地域を支える多くの方々に発信していく。


【 伊吹地区教育フォーラム 】

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)
■校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　□その他(　　)

報告書記入者(　教頭　)

## 人をつなぎ　学びをつなぐ　子どもの育成を地域とともに

| 米原市 | 活動名 ： 米原学区地域学校協働本部 | 米原中学校・米原小学校・<br>まいばら認定こども園・米原保育園<br>学校運営協議会 ： ■有　□無 |
|---|---|---|

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 28 年度　地域学校協働活動推進員等数：2人　ボランティア登録数：23 人
■学習支援(授業補助、学力補充等)　□図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備)　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)　□地域行事への参加　□ボランティア・体験活動
■郷土学習　□その他[　　]

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行 政　□その他(　　)

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
○農園活動・環境整備活動を中心とした活動　○小・中・園一体とした活動の推進
○飛び出し坊やの製作やかまどベンチの修復　○下校時の見守りについて
○収穫感謝祭(教育フォーラム)の進め方について


【 収穫感謝祭(教育フォーラム) 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)
○小中の授業における農業指導や農園整備の実施、収穫感謝祭の開催
○中学校　生徒会との連携によるアルミ缶回収や親子愛校作業の開催
○小学校　夏休みの親子愛校作業への参加と環境整備作業、農園の整備作業
○認定こども園　農園の環境整備(畑の耕起やいもつるの処分)
○園・小・中が共同で実施した活動
　飛び出し坊やの作成、警察署を招いての交通安全教室
　認定こども園・小・中合同の収穫感謝祭の開催(約 500 名参加)

■ 事業の成果・展望
○各学年の総合的な学習の時間に、地域学習としてさつまいも・ネギ・大豆・大根・青パパイヤ等の栽培を行った。農業指導をされている方に畑をトラクターで耕作していただき、農作物の植え付けや収穫の方法について指導をしていただいた。
○収穫感謝祭には地域ボランティア約 20 名に参加いただき、収穫感謝祭の準備として薪作りや火起こしをしていただいた。保育園・認定こども園・小学校・中学校の子どもたち、地域ボランティアの方、保護者との交流をもつことができた。
○中学校3年生の生徒が育てた葉ボタンのプランターを日頃お世話になっている地域や関係機関へ配付する際に運搬や育苗を手伝っていただいた。
○中学校生徒会でアルミ缶やペットボトルキャップの回収を行う際、地域での回収活動やアルミ缶回収の業者への依頼から運搬まで行っていただいた。
○交通安全啓発のため中学生がコーディネーターの協力を得ながら飛び出し坊やを制作した。材料の手配や型に切る作業をコーディネーターの方が行い、色塗り作業を中学生が行った。計9体の飛び出し坊やを作成。各校園に配付し、通学路等の危険箇所に設置する予定である。
○今年度、登下校時の交通マナーに課題があったため、下校指導の課題について相談したところ、地域で立哨指導を実施し、教職員とともに子どもたちの安全確保に努めることができた。
○年間を通じて充実した活動ができているのは、地域コーディネーターの人柄と尽力による部分が大きい。この活動が持続し、発展するためにも、コーディネーターを補佐しつつ、次のコーディネーターを育成していくことが必要である。
○地域ボランティアの固定化・高齢化が進んでいる。新規ボランティアを発掘していく必要がある。


【 葉ボタンの苗植え替え 】

■ その他
　コミュニティ・スクールを導入して7年目となる。今年度も地域学校協働本部と学校運営協議会が学校教育を推進するための両輪となりうまく機能していると感じている。今後生徒が地域へ出向き社会貢献できる取組を推進したい。

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)
■校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　■その他( 学年主任・担任 )

報告書記入者 ( 教頭 )

## 「大東中学校ビブリオバトル」～人を通して本を知る・本を通して人を知る～

| 米原市 | 活動名 ： 大東学区地域学校協働本部 | 大東中学校・山東小学校・大原小学校<br>学校運営協議会 ： ■有　□無 |
|---|---|---|

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印
開始年度：平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数：8人（兼務1人）　ボランティア登録数：7人
■学習支援（授業補助、学力補充等）　■図書ボランティア（読書活動支援・図書室環境整備）　■学校行事支援
■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり
□地域人材育成（地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育）　■地域行事への参加　■ボランティア・体験活動
□郷土学習　□その他[　　]

■ 事業を考案する主体（該当するすべてに■印）
■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行 政　□その他（　　）

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映
・児童生徒、保護者、地域で共通して取り組める教育活動について
・読書と学力の関係に関する具体的な研究データ
・学区全体で、読書に取り組む活動


【 ビブリオバトル（発表） 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動（特徴的な活動）
・中学校の発表に、学区の小学校や地域の図書館長、保護者も参加する活動
・コミュニケーション力をつける、読書への意欲・関心を高める活動

■ 事業の成果・展望
①書籍情報共有・・・参加者で本の内容を共有できる。話題の共有。
②スピーチ力向上・・・遊びの中で発表の経験を積め、他者の発表を見ることで伝え方を工夫できるようになる。
③良書探索…人に勧めたい本が集まるため、良書に出会える。読書の幅が広がる。
④コミュニティ開発・・・「本の紹介」を通して発表者の人となり・個性を知り、相互理解が深まる。
（場の雰囲気をほぐし、コミュニケーションをとりやすくする）

■ その他
・来年度以降、中学校のノウハウを活かし小学校でのビブリオバトルを計画中である。
・チャンプ本については、図書館で読めるように購入。


【 ビブリオバトル（質問） 】

■協働活動推進員（コーディネーター）と協働する学校関係者（該当するすべてに■印）
■校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　□その他（　　）

報告書記入者（ 教頭 ）

## 地域の子どもたちの健やかな育成をめざす取組

| | | |
|---|---|---|
| 米原市 | 活動名 ： 双葉学区地域学校協働本部 | 双葉中学校・坂田小学校・息長小学校<br>学校運営協議会 ： ■有 □無<br>おうみ認定こども園 学校運営協議会 ： □有 ■無 |

地域学校協働本部概要　※実施した活動内容全てに■印

開始年度:平成 29 年度　地域学校協働活動推進員等数:4人(兼務0人)　ボランティア登録数:90 人

■学習支援(授業補助、学力補充等)　■図書ボランティア(読書活動支援・図書室環境整備)　■学校行事支援

■子どもの安全確保、見守り　■部活動支援　■学校周辺環境整備　□学びによるまちづくり

■地域人材育成(地域課題解決型学習、地域人材によるキャリア教育)　□地域行事への参加　■ボランティア・体験活動

■郷土学習　□その他[　　]

■ 事業を考案する主体(該当するすべてに■印)

■学校・園　■学校運営協議会　■地域学校協働活動推進員等　□行 政　□その他(　　)

■ 学校運営協議会での主な協議内容と活動への反映

・学校経営方針、全体計画について
・通学路等、生徒の安全について
・学校行事等の取組について
・道徳教育の研究実践について
・地域貢献活動について
・芝桜植栽計画について



【 芝桜植栽活動 】

■ 「つながるよさ」を生み出した活動(特徴的な活動)

・今年度、双葉中学校では校舎とグラウンドの間の法面に芝桜を植栽する取組を実施した。この取組を地域と学校をつなぐ機会と捉え、学校運営協議会や民生委員児童委員協議会に協力を依頼した。当日は、地域の方々と生徒、教職員が、「学校を桜色に・・・」という目標のもと、植栽活動を行った。
・1年生の総合的な学習の時間の一環として行った「ふるさとウォーク」では、生徒の見守りに自治会長や民生委員児童委員の方々の協力をいただいた。生徒に声をかけながら交通立哨をしていただき、改めて地域の方々への感謝の気持ちをもつ機会となった。

■ 事業の成果・展望

・芝桜の植栽は、今年度から始めた新たな活動であるが、生徒が地域の方々と共に活動するよい機会となった。また、地域の方々も中学生とのふれあいをたいへん喜んでくださった。この活動は来年度以降も継続し、3年計画で法面全体を芝桜で埋め尽くす予定である。また、定期的な植え替えも必要となるため、地域と学校をつなぐ毎年の定例行事としていきたい。5月初旬には、桜色の花の絨毯が拡がる景観を地域の方々とともに楽しみたい。
・双葉中学校では、学校運営協議会や民生委員児童委員協議会に、体育大会や合唱コンクールはもちろん、授業参観日や学校公開週間についても学校にお越しいただけるようご案内している。地域の方々に来校いただく中で、地域と学校のつながりを強めていきたい。また、ボランティア活動や吹奏楽部の演奏等で、生徒が地域で活動する機会をより多くつくれるよう働きかけを行っている。今後も生徒のボランティアに対する意識を高め、生徒が地域で活躍する学校風土の醸成に努めていきたい。

■ その他

・子どもたちの学びや成長を地域全体で支えていただくだけでなく、学校が地域社会の活性化にも貢献していくという視点は、本事業を進める上で大切にしていきたいところである。
・地域学校協働活動推進員と連携、協働しながら、地域人材の確保や新規開拓を推進していくことが必要である。また、地域の方々に負担感なく継続して協力いただけるよう、持続可能な取組や体制づくりを推進していきたい。



【 1年生ふるさとウォーク 】

■協働活動推進員(コーディネーター)と協働する学校関係者(該当するすべてに■印)

■校 長　■教 頭　■地域連携担当教職員　□その他(　　)

報告書記入者( 教頭 )